



明日へ

学校教育目標

自律:自ら考え、判断し、行動する生徒

尊重:自他を理解し、協働する生徒

創造:健全な精神と豊かな発想で、創意工夫する生徒

学校テーマ

～みんなで創る！ 夢・実現する学校～

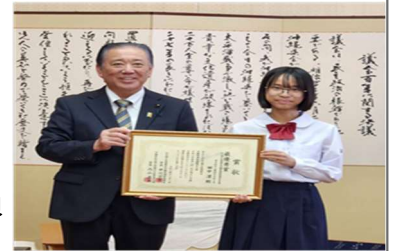
「北方領土」について考える

本校3年3組の田中 凜(りん)さんが、北方領土返還要求沖縄県連絡協議会が主催する「北方領土と沖縄」についての作文において、最優秀賞(会長賞)を受賞しました。12月13日(金)には、田中 凜さんが沖縄県議会議長室にて県議会議員中川 京貴 議長より直々に表彰状の授与を受けました。

本校の内山直美教頭が県北方領土問題研究教育者会議に携わっており、3年生の社会科(公民)の授業を実施したことから、田中 凜さんが北方領土について考える作文を書くきっかけになったそうです。

受賞された凜さん 本当におめでとうございます。

下記に凜さんの作文を紹介します。(原文通り)



「私にできることを」 豊崎中学校三年 田中 凜

領土問題、それは戦争や紛争の原因となってしまう大変大きな問題です。今、私たちは当たり前のように平和に暮らしています。しかし、日本はその深刻な領土問題を二つ抱えています。一つ目は竹島をめぐる韓国との問題。二つ目は、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島を含む北方四島をめぐるロシアとの「北方領土問題」です。この北方四島は一度も日本以外の国の領土になっていないのにも関わらず、ロシアが不法に占領しています。さらに、アジアだけでも領土問題はおよそ三十もあり、そのうちの一つとして現在注目されているイスラエルとパレスチナの問題があります。このように、世界で絶えない領土問題や「北方領土問題」の解決のために、小さな事からでも私にできることはないか考えてみました。

まず一つ目は、北方領土問題について学ぶこと、知ることです。このことは、簡単そうに見えて一番重要だと考えます。昨年と今年、私は学校の授業で北方領土問題について学びました。学ぶ前は北方領土問題があるということは知っていましたが、一体どういう問題なのか、なぜ私たちが学ぶのか分からず、自分には関係なさそうだと思っていました。しかし、学んだ後は、なぜこのような問題があるのか、私たちが学習する必要性について知ることができました。私たちは、世界や日本の問題について理解し、解決のために何ができるかを考えたり、平和について思いを巡らせるために、北方領土問題を学ぶのだと、二度の授業で感じています。

さらに、私の住む沖縄はかつてアメリカの統治下に置かれていました。この出来事と北方領土問題を照らし合わせて考えることも私たちが北方領土問題を学ぶ意味だと考えます。学校での学習の後、私の友人は「ジョパンニの島」というアニメ映画を観たそうです。このように、まず北方領土問題について、学び、知り、興味を持つことが大切だと考えます。

二つ目は、北方領土問題について学んだこと、感じたことを家族や友人と共有することだと考えます。なぜなら、そうすることでより自分の考えを深めることができ、問題解決へ向け何をすべきか考えることができます。私は、北方領土問題の授業やその後の友人と意見交換することで、友人がこのように考えているから自分も挑戦してみようと思ったり、新たな発見がありました。また、私は北海道に親戚がいるので、一緒にこの問題について話してみたいと思います。このように私は北方領土問題について周りの人と話すことが大切だと思います。一番重要なのは、一人でも多くの方が北方領土問題や世界中の領土問題について知ること、興味を持つこと、行動に移すことが解決への道だと考えます。「発信」することで、より多くの人に伝わり、多くの方が興味を示すだろうと考えます。

かつてアメリカの統治下だった私の住む沖縄は、復帰前の「祖国復帰運動」が行われました。北方領土問題についても多くの方が粘り強く解決へ向けて続けることが重要だと考えます。しかし、現在北方四島に住んでいるロシア人のことも忘れてはいけません。両国が平和に暮らしていくためにも、何が必要なのかを考えなければなりません。一人一人の行動の積み重ねが大きな力になるはずですよ。